

令和7年度第2回恵那市ICT活用推進委員会 議事録

日時：令和7年11月20日（金） 午後4時

場所：恵那市役所西庁舎4階 4A会議室

1. 開会

2. 議事

（1）恵那市DX推進計画の素案について

資料No.1

（第3期恵那市ICT活用推進計画）

（2）第2期恵那市ICT活用推進計画の取組状況について

資料No.2

3. その他

4. 閉会

■委員

| | 選出区分 | 団体名 | 氏名 |
|---|-------|--------------|--------------|
| 1 | 学識経験者 | 法政大学理工学部 | 藤井 章博 |
| 2 | 学識経験者 | 法政大学大学院 | 山崎 泰明（欠席） |
| 3 | 商工団体 | 恵那商工会議所 | 古山 紀昭（欠席） |
| 4 | 商工団体 | 恵那市恵南商工会 | 瀬戸 利之（欠席） |
| 5 | 教育団体 | 恵那市小中学校校長会 | 可知 浩幸 |
| 6 | 防災団体 | 恵那市防災研究会 | 岩井 慶次 |
| 7 | 福祉団体 | 恵那市社会福祉協議会 | 紀岡 伸征（オンライン） |
| 8 | その他団体 | 恵那市地域自治区会長会議 | 小木曾 信夫（欠席） |
| 9 | 副市長 | 恵那市 | 柘植 克久 |

■（事務局）情報政策課 沼田、鈴木、原、小坂、森山

ソフトバンク株式会社 小林

■傍聴者 0名

1. 開会

■事務局（進行）

本日はお忙しい中、お集まりありがとうございます。ただいまからの第2回のICT活用推進委員会を開始させていただきます。お手元のパソコンの方で資料の方は展開させていただいておりますので、そちらの方もご覧いただくようによろしくお願ひいたします。また、今オンライン参加の開設中のため、紀岡委員の方が遅れます。申し訳ございませんがよろしくお願ひします。また、急遽の本会議の時間・会場が変更となり申し訳ございませんでした。そして、ご都合をつけていただき、誠にありがとうございます。

それでは、情報政策課長の沼田の方で、本日進行を務めさせていただきます。本日、第2回目のICT活用推進委員会となります。前回が8月1日ということで約2ヶ月経過しました。前回は、計画の概要や、特にICTからDXというテーマへの移行等についてご協議いただきまして、特に委員の皆様方からは、キャッチフレーズであるとか、わかりやすい内容にというようなご指摘をいただいたかと思っております。

これらを踏まえ、本日、素案というものを、ご提示させていただきながら、また皆様方のご意見を頂戴したいなと思っております。本日、山崎委員、古山委員、瀬戸委員については、事前にご欠席のご連絡をいただいておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

また、本日の会議はウェブサイト等で、会議の結果については公表させていただきますので、ご承知おきいただきたいと思います。

それでは、一時間ほどで、終了時間というふうに設定をさせていただければと存じますので、これよりの進行は、藤井委員長より、よろしくお願ひ申し上げます。

■藤井委員長

本日は、お集まりいただきましてありがとうございます。現在、進行中の次期ICT活用推進計画策定に向けた会議を次第のとおり進行しますので、よろしくお願ひいたします。

では、まず、議事の「（1）恵那市DX推進計画の素案について」を事務局より説明をお願いいたします。

2. 議事

（1）恵那市DX推進計画の素案について

[事務局から資料No.1に基づき説明]

■藤井委員長

はい。ただいま、事務局から説明いただきました。これより質疑応答に入りますが、ご意見はございますか。

では、私の方からよろしいですか。AIの活用は提供できる機能は日進月歩かと思う。この点をどういうふうにキャッチアップしていく想定をされていますか。

■事務局（進行）

はい。AIの機能は日進月歩で成長していきます。素案では、26ページの中で、仕事を効率化するというようなテーマでは取り入れさせていただきましたが、ご意見のとおり、世界規模でも、開発が進んでおります。先般も市役所にて、ソフトバンク様を講師としてお招きし研修を開催しました。こちらの詳細は、後程ご説明します。当市も10月から生成AIツールを業務で活用するということをスタートアップしました。その中でも、研修を開催する中で、この生成AIの機能というのが、バージョンアップされています。これに職員もしっかりと付いていくことが必要になってまいります。

もう既にエージェントといったようなタスクを管理するような生成AIも登場してきているということをお伺いしております。こちらも市役所のデータを読み取り有効活用していくことも考えられます。ただそこには、セキュリティ対策の施しも必要になります。

職員の使う部分のボリュームアップや、新しい機能の追加と並行して進めていく必要があると考えております。

■藤井委員長

他にいかがでしょうか。では、私からもう一つ。ITの活用で、前段の話は具体的なツールの話だったが、後半で多少なんか粒度の大きな話かと。暮らし、賑わいなどの部分です。この部分等について、具体的に何か考えたことはあるのでしょうか。

■事務局（進行）

今回、基本方針ということで委員長のご意見のとおり、まずは市役所が行う市民サービスの向上、利便性の向上、あとは市役所の中の業務効率化で新たな時間を作り出すなどは、一般的にこれは全国でも、国が示す自治体のDX計画でも、しっかりとテーマとして設けられている。この最後の項目の地域の暮らしと経済などについては、新たな総合計画などを基礎としています。そこに、いわゆるデジタルの力で解決や向上ができないかと考えました。特に最近、恵那市長も議会などの答弁で申し上げているのが、「人口減少社会の中で、現在のこういった恵那市の社会的な機能を維持する課題に関しては、デジタルとビジネスの力でもって解決、挑戦をしていこう。」というような言葉が出てまいります。

このように、今回 3 つ目の柱として、テーマで設けましたが、まだ委員長ご指摘の具体的な部分については考えられていない状況です。

■藤井委員長

私のほうで、色々言うのは、ちょっと筋違いだと思いますが、例えば最近では、ビジネスモデルとして、町内会の事務を請け負ってというようなこともされているので、そういうことも検討されてはいかがかと思いました。

■事務局（進行）

ありがとうございます。以前も少し藤井委員長から、そのような先進事例などをご紹介いただきまして、私自身もネットなどで拝見をさせていただきました。

ご指摘の通り、恵那市の、いわゆる地域の自治会の活動なども、いわゆる、過渡期を迎えており、自治会の減少であるとかの地域の活動がなかなかままならないというようなテーマ大きな課題を抱えています。そのため、ほかの力を借りながらの新たな展開をするなども、DXがテーマに入ってくるかと思います。ありがとうございます。

■藤井委員長

よろしくお願いします。他によろしいでしょうか。それでは岩井委員、どうぞ。

■岩井委員

27 ページ。オフィス環境の整備ってありますけど、その上にも多様な働き方の推進ってあります。働き方をもっと進めていただいて、在宅勤務なども進む時代になるのではと思います。テレワークでも、現場のある部署は難しいかと思いますが、事務部門を託されている部署や子育てをする職員等は活用することができるのではないでしょうか。

それから防災面で言うと、例えば飯地や串原などの遠隔地出身の職員は、本庁に勤務しているケースもあるかと思うので、こちらを活用すれば本庁に来なくても勤務ができるかと思います。かつ防災面的にはかなり有効でないかと思います。その勤務自体が災害時の勤務体制だから、日頃からそういうことができていれば、今のスペースフリーになるのではと感じました。

また、防災のことを取り組むというデジタルツールについてですが、僕が感じているのは、恵那市は、災害情報の通知が非常に少ないです。防災情報が。いきなり避難指示が出るという避難所が来ましたという情報が来ますけど、その前の情報が全然ない。僕らは、様々な情報ツールを見ているので、もう少し把握できているが、一般の市民の方はいきなりなんですよね。だから避難できないのですよ。

そのため、心の準備のために「避難準備情報」というのを出してもらわないと避難できないです。飛騨市は「避難準備情報」というのを独自で作られて出しています。やはりそういう仕組みを作っていくないと、突然だと避難できないため、その辺も考えてもらっていいかなというふうに思います。

あと避難所の情報ということもありますけど、どんな情報出されるのかなというふうに、受付がちゃんと、フリーで受付できるのか。マイナンバーカードで管理するのか。そういうのを持っていけば受付してもらえるなどのサービスは色々あると思います。しかし、それが今流行りで、実はその後が大変です。

被災後に国のどんな支援を受けられるとか、そういう制度的なところが必要かと。静岡県の永野海氏という弁護士ですけど、そういう一覧表を作ったりとかして出しています。

生活再建の今後の方向性がわからないと「被災後に私これからどうなってしまうの。」という底になってしまいますよね。そのため、その後の制度などがわかり、「国からだって300万もらえる」などがわかれば、「じゃあ頑張ろう。」となるのではないかと思います。

この間の福岡の被災も国から最低補助が入ったため、300万もらえます。これがわかるものが、被災者に提示できると見た人は、「あ、頑張ろうかな。」となつたわけです。そういうところも避難情報としては、そういう情報も出してほしいなと思っています。

■藤井委員長

そうですね。経常的な避難訓練というのはどこでもやっていらっしゃるので、今のご意見はもう一步突っ込んだものがあつてしかるべきということでしょうかね。

■事務局（進行）

ありがとうございます。2点ご意見頂戴しました。まず一点目は、働き方の部分でテレワークということでした。コロナ以降、テレワークの推奨をされていますが、恵那市役所でもテレワークできる環境にはあります。最近は、私どもこのＩＣＴのインフラ環境とし

ましては Wi-Fi など無線で今業務をさせていただいておりまして、家庭でも、Wi-Fi ルーターをまだ試行的ですが情報政策課にて、お貸ししており、いわゆる自宅においても市役所と同等の環境で、業務をしていただけるような環境を作りつつあります。

こちらを実施後、実は少し二次的な効果みたいなものも見えています。ただ単にいわゆる育休とか、介護がある方が、自宅で、こういった業務をするだけじゃなくて、以前、市役所で、実は大規模な、ちょっと停電が発生した際に効果を発揮しました。

その停電は、PCは立ち上がるが、ネットの環境が少し不具合を起こした障害でした。その際に、いわゆる外付けの試験貸出し中の Wi-Fi ルーターで現場業務が遂行できたという成果があります。あとは、消防の職員の現場検査での成果です。消防職員は日頃、予防的な業務で、消防の現地検査などで外出の機会が多く、これまで紙書類をたくさん持つていき、現地で状況確認しながらチェックをしていたのが、ポケット Wi-Fi と業務用ノートPCを持っていくことで、その場で業務が遂行できたという成果です。

このように、ペーパーレスが図ることができました。いわゆるこのテレワーク環境というのは、いろんな場面で効果を発揮するなというのがだんだん見えてきましたので、もっと様々な場面で、可能性を追求して行きたいなという考えです。

あと今、避難所のお話も頂戴しました。確かにデジタルツールなどのデモンストレーションなんかを拝見しますと、チェックインチェックアウトの機能は最近マイナンバーカードを使いできるようなソリューションをよく拝見します。先ほどの岩井委員のご指摘のように、実際入ってからとか、入った後の支援であるとか、そういったところまでの本当の実務というか、実際に現場がこうなっているということがないと、なかなかわからない部分ということもありますて、そこまで突っ込んだ技術というのは、まだまだちょっと見えてないかなと思いますので、そういった部分もしっかり危機管理の担当を含めて考えてまいりたいなと思います。ありがとうございました。

■岩井委員

その辺は永野氏に聞かれると、わかりやすいと思います。もっと言うと、市民に寄り添うということを何回も素案では記載がありますが、KPI的にはその寄り添ったところをどう評価するかというところはどうなのでしょうか。

■事務局（進行）

できる限りKPIとして、例えば寄り添った時間を増やそう、これは生成AIとかデジタルの技術を活用して、普段の負担が大きくかかる業務を、圧縮することで、その圧縮された時間が市民に対応できる時間に転換するというかですね、ということはしっかりと業務の時間がどれだけ減ったか、経費がどれだけ減ったかということは、数字的にも掴んでいきたいと考えています。

10月から、生成AIツールを庁内全体に運用開始しました。その前に、7月、8月には市役所の職員、若手職員を中心に30人ぐらいで試験導入をさせていただきました。そして、その30人にアンケート取ったところ、一人当たり、平均ですけども、1日あたり30分ぐらい、このツールを活用することによって、効果があったというような、結果も出ています。こちらは、アンケートの結果としてですが、少し効果が見えましたので、最終的にはそのような市民に寄り添う時間が増えるという結果につながるような運用の仕方を考えてまいりたいです。

■岩井委員

その中で、単に時間が減っただけじゃなくて、そもそも費用対効果というか、評価方法を考えあげるといいかなと思います。以上です。

■事務局（進行）

ありがとうございます。

■藤井委員

他よろしいでしょうか。それでは続いて、可知委員お願いします。

■可知委員

すみません。まず質問ですけど、この計画自体は誰に向けた計画なのかなっていうのがあります。文書にみると丁寧に「ですます」調の説明になってますが、広く一般市民向けに出す計画であれば、後半の用語集が必要だと思います。現在の状態では、用語集ができないので、非常に難解というか、難しい。

私自身がDX自体でもう止まってしまうので、難しい。誰に向けた計画なのかなっていう。例えば、一般市民用に理解してもらうためのリーフレットだとか概要版だとか、そういったものを別に作る等。もっと分かりやすく作るものがあるのかどうかっていうことも

含めてなんですけど、まずそこが必要かと思います。

また、「えーなび」は私も入れてよく見ますが、そこに未来キャンパスのお知らせがたくさん来ます。最近、よく通知が来ますが、未来キャンパスの使用状況というか、デジタル活用の状況というかね、どれだけの市民が利用して、デジタルを学んでいるかという実績をちょっと知りたいなというふうに思いました。

あともう一つは、昨日、ニュースで、生成A I やチャットG P Tと結婚した女の人が取り上げられました。その女性がA I にプロポーズし結婚に至ったそう。両親もそれを認めて結婚式挙げたという内容でした。

このような生成A I の問題が進んでいる状況の中で言うと、例えば「誰も置き去りにすることなく」という方針で進めるのであれば、全く市役所に来ることができない人も、家に自分専用の生成A I があり、全て代行できるようになればと良いと思いました。

あと、私は小中学校の代表という立場のため、子どもたちについて。子ども達の活用としては、例えばボランティア。参加希望者が、参加申込からすべて自分でやり取りできてしまうような、スマホだとか、そういったものを通して、どんどん市政に、子どもたちなりに参画できるようになれば良いと思いました。

■事務局（進行）

ありがとうございます。三つほど、ご意見頂戴したかと思います。まず一つ目ですけども、資料内には多数専門用語が出てまいりますし、どこに向けてというところについてです。これはやはり市が作るものなので、市民、市内の事業者、あと、例えば子どもたちや我々職員自身など、様々なステークホルダーの皆さんにこちらの方は知っていただきたいです。そして、この計画をもとに恵那市の暮らしを良くしていこうという取り組みで、先ほどの事務局説明にて「みんなで作る」みたいなこともご紹介させていただいているので、しっかりそういったことにつながるように紹介をしていきたいです。なので、概要版というものも作っていきたいなということは思っております。

あと2番目、未来キャンパスのお話ですけども、多種多様な今いろんな、講座を実施させていただいておりまして、「えーなび」や市民メールにて開催案内をさせていただいております。だいたい今の未来キャンパスのスケジュールを拝見すると、週1～2回ぐらいは様々な講座が入っています。いわゆる各種のプログラムに係る講座や、I C Tツールの勉強の講座を開催しており、講師の多くは市外の方をたくさんお呼びし、この恵那であっても、最新鋭のいろんなI C Tに関する講座が学べるというようなスタンスのもとで取り

組んでおります。会場が狭いため、約5～10人程度の定員で開催している状況です。

あと、最後AIの可能性ということだったかと思いますけども、最近は、実は学校の中で子どもたちが、そういった生成AIのツールを使っていく環境づくりの取り組みも、議論を教育委員会とさせていただいております。隣の中津川市では既にそのような取り組みを、スタートしているということをお聞きしました。

また教育とか子どもたちの可能性を高めるという分野の中で、何かそういったチャンスができればいいなというふうに思います。ありがとうございます。

■藤井委員長

よろしいでしょうか。それでは、次の議題に移りたいと思います。第2期恵那市ICT活用推進計画の取り組み状況ということについて説明いたします。

（2）第2期恵那市ICT活用推進計画の取組状況について

〔 事務局から資料No.2に基づき説明 〕

■藤井委員長

ありがとうございました。大変興味深い取り組みですが、これらについてご意見ございますか。では私のほうから。興味あるところがあり、資料の最後のページの取り組みについてです。

実は、ペッパーは何年も前に、スクラッチの講習に関しては、私、担当していました。その際、中学校の先生たち向けのコンテンツの作成を、ご依頼していただいてですね、ご提供したという経緯があったのですけども、ペッパーのプログラムを作るのは結構難しいと思います。

そのため、今どういう風にやっているのか。ちゃんと導入しないとすぐにはできないと思うのですが。

■事務局（進行）

ありがとうございます。実は今回、この8月7、8日の2日間は、恵那未来キャンパスにていわゆるプログラミングの講座として開催しました。そして、講師はサステナ様にし

ていただきました。やはり、専門的な部分を教えるのは学校の先生ではスキルが満たないからという理由です。

専門的な部分は、専門講師にて、初日と4日目については、学校の先生が、子どもたちのやる気をこう引き出すような、仕掛けとして、学校の先生が引率のような形で取り組ませていただきました。

■藤井委員長

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは本日の議事については全て終了しましたので、進行を一旦事務局に戻させていただきます。

■事務局（進行）

オンライン参加の紀岡委員については、現在オンラインが途切れてしまっているため、改めて、別途お聞きするようにいたします。

それでは本日ご用意させていただきました議事はこの2つということで、多種多様なご意見頂戴いたしまして本当にありがとうございます。

その他については、今回は特別に議題をご用意いたしておりませんが、よろしかったでしょうか。それぞれ委員から何かご提案事項とかあれば伺いますが、いかがでしょうか。

■岩井委員

それでは、1点。今、告知放送が運用されて結構対応年数も過ぎていたり、枯れた技術なので、あれはあれでいいと思います。

しかし、現在スマートフォンの普及が非常に広まっているため、告知放送とプラスでスマートフォンへの情報周知というのは、いただけるとありがたいなと思います。

今、「えーなび」がありますが、こちらは見に行かないと見えないので、やっぱりプッシュ通知があると大変助かります。「えーなび」にプッシュ通知はありますか。

■事務局（進行）

「えーなび」にプッシュ通知はあります。設定が必要になります。ありますが、限られている情報と、いろいろありますので、機能向上含め検討します。ありがとうございます。

■岩井委員

情報の出し方をね、精査しないと。先ほどの永野氏の情報を送りましたのでご確認ください。この前、宇佐市、杵築市の火事の、復興支援の情報が出ているので、能登半島につ

いても見えます。やはりそういう先を示してあげると、被災者はとても方向が見えていいと。

■藤井委員長

そうですね、災害、大きな災害に対して、なんかいろんな取り組みを、やった例とか、研究している人とかいるので、そういうのをキャッチアップされるといいかなと思います。

能登なんかは本当にいろんな取り組みがあり、トイレの話とか、炊き出しを、キッチンカーを回したとか、そういう話とか、いろいろなんか私は聞いたことがありますね。

それでは、以上になります。

4. 閉会

■事務局（進行）

防災関係については、後程いただいた情報を確認させていただきます。ありがとうございます。

それでは、本日の議事は以上となります。次回の委員会ですが、現時点では1月15日の午後からを予定させていただければと思っております。

皆様の都合がつきにくい場合はリスケジュールさせていただくかとは思いますが、一旦1月15日とさせていただきます。

それでは今日頂戴いたしましたご意見を、また次回までにしっかり計画の方に反映をさせていただきながら、今度は案ということで、おおよその出来上がりを作っていくたいなというところです。

その後はパブリックコメントということで市民のご意見をいただきながら、最終3月までには確定をしていこうという作業を進めてまいりたいと思います。

また改めて皆様方のご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

〔閉会〕